

2010.12.15

Contents

キリム - 世代を超えた魅力 -

- HABITAな風景
- 住まいは巢まい
- キニナルマドリ
- 住まいのオーダーメイド館403
- 住まい文化の葉
- 住健住康
- Green Earth
- Office HABITA
- 豆ハビ
- 5th ROOM



HABITAな風景

木のとんぼ

また、買ってしまいました。  
木細工の小物を見つけると、  
つつい欲しくなります。  
今回は、とんぼです。  
頭の先でバランスを保って、  
風が吹くとゆらゆらと飛びます。  
指先で、ちょんとつつくと、  
8の字を描くように飛びます。  
木が好きで、家を建てる時は  
部屋の中も木にこだわりました。  
これだけたくさんの  
木が見えていても、  
やっぱり木の小物が欲しい。  
見て、触って、  
その木肌を確かめることが、  
癖になっているのかもしれない。  
つくづく木が好きなんだな、  
と、笑ってしまいます。  
家族は、どんどん増える。  
私の木の小物にあきれながらも、  
大切にしてくれます。

三澤千代治の

住まいは巢まい

住まいは人間形成の場

戦後65年が過ぎ、世の中どうもおかしな現象が多すぎるような気がします。夢を語る人が少なくなっています。世の中のためにと、志を持つ人が少なくなっています。だからビジョンを描けません。人間関係も苦手で、周辺への気配りもできません。

過大なローンを抱え、自己破産に追い込まれる人も多い。女性の社会進出と言われますが、自分の能力を活かすというのではなく、実態はローン返済のための共働きだったりする。離婚も増えています。

そうした状況の中で、子どもは、家族団らんも知らず孤立しています。登校拒否やいじめが目につき、家庭内暴力さえ出てくる…といった具合です。豊かさの時代が叫ばれて久しくなります。その実態はどれも物の豊かさに片寄りすぎ、その分、心が貧しくなったようにも感じるので。

改めて、“住まいは巢まい”と考えて、心の豊かさを実現する基盤が住宅であることを認識してほしいということです。つまり、住宅は人間形成の場として伝統、文化、美意識、創造性、そして人間関係を学び、真の人間として成長していく場なのです。

日本の文化が世界に誇れる住宅をつくりだしていることは、実は大切なことであったということに気づくはずで。

(MISAWA・international 社長)

Weekly HABITA 041

キリム - 世代を超えた魅力 -

カーペット、絨毯、ラグ、マットなど呼び方は国によって様々で、使われている素材もたくさんある。部屋に合った敷物が良いか、買った経験も一度はあるかと思えます。

見本

人の手によって丁寧に織られたハンドメイドの敷物を段通と言います。織り方や結び方が地域によって異なり、ペルシャ、トルコ、中国などの地名をつけた段通があります。それぞれの地で大切にされ、時を超えて守られてきました。今回は、その中でも奥深いキリムに注目してみたいと思います。

キリムは遊牧民の生活必需品

段通は、装飾が目的の場合もありますが、もともとは座る風習のある地域では座り心地を快適にするのが目的であり椅子式の風習の地域では、室内を美化することと足ざわりをやわらかくするのが目的です。中でも、トルコの段通はヨーロッパではトルコキリムの呼び名が通称となり、段通の代表格のように広くキリムと呼ばれるようになりました。

キリムは、トルコ、イラン、イラクなどの中近東から、モロッコやエジプトなどの牧草地帯の遊牧民や、山岳地帯で暮らす牧畜民たちの生活必需品となっています。砂や石ころだらけの土地を移動し、

テント暮らしを基本としています。彼らが古くから代々織り継いできた文化と伝統で生み出したキリムの背景をひも解いてゆくと、使い方だけではなく、原料、織り方、模様、作り手の感性や思い、そしてキリムを持つことの意義や心の財産という存在価値などがあり、とても奥深いことがわかります。また、敷物だけではなく、寝具、間仕切り、ゆりかご、衣類や穀物を入れる収納袋など、ありとあらゆる用途に使われました。

日本にも似たようなもので、多目的に使用することができる風呂敷がありますが、キリムの場合、生活のすべてと言っても過言ではないほどの



中心的存在で、家畜同様、大切な財産でした。テントという「住まい」を彩り、暮らしに潤いを与えた装飾品や工芸品でもありました。

そのキリムの始まりの歴史は、紀元前6世紀ごろと言われている。



# キリム

## 世 代 を 超 え た 魅 力

### 古ければ古いほど価値がある

キリムの素材は主に家畜である羊やヤギです。毛を刈り、糸を紡ぎ染めます。植物、昆虫、鉱石など、自然に存在するものを染料としています。色の表情も自然界から生まれるものは独特の味わいがあり、赤は、紅花、さくらんぼの皮、バラの根。青はナス、黄色は玉ねぎの葉、サフラン。茶色はクルミの皮。黒はオークや漆などから。オレンジや紫は色を混ぜて作られました。

このような草木染めのキリムは、使い続けることによりだんだんと色が抜けていきます。退色による色合いも、時間が経過しないと生まれない貴重な色です。

また、ヤギやラクダの毛からできたキリムは、使い続けることにより柔らかさが増し、手肌に馴染みやすくなります。このようなことから、古いものであればあるほど価値が上がります。制作されてからの年月によって呼び名が変化し、年代別の呼称はそのキリムの価値の指標にもなるほど重要視されています。

#### ニュー (New)

制作後20年未満のもの

#### セミ・オールド (Semi Old)

制作後20年以上50年未満のもの

#### オールド (Old)

制作後50年以上100年未満のもの

#### アンティーク (Antique)

制作後100年超のもの

身近なところだと、たとえばアンティークの服、着物などは技術そのものに価値がある場合もあり、高価なものが多いことを思い出してみると、うなずけるでしょう。



時がたつにつれて増してくる深みのある色合いは、古民家の廊下の色合いや柱や梁の木材の色味と同じです。どんなに色を塗っても、新築では出せない独特の色合いに美しさと価値があるのです。

そしてこれらに共通していることは、人が常に側にいるということです。ただ古いだけのもので、人と共に時を過ごしていないものは、どんなものでもその味わいは薄れ、さびれてしまいます。人が愛情をもって手をかけ、受け継いできたことに古さへの価値があるのです。

### キリムは部族内伝承

遊牧民は、羊やヤギなどの家畜を連れ、水と草を追い求めながら家財道具一式を持ち、移動を繰り返します。女性たちは、毎日、家族や家畜の世話をしながらキリムを織り続けました。

その昔は型紙などありません。現代の機械で織る織物とは違い、それぞれに個性と表情があり、彼女たちの想いや願い、感性の全てがキリムに表現されています。彼女たちは日々の生活の中、家族のため、自分のために織り続けてきました。

また、キリムは花嫁の持参品でもありました。女の子が生まれると、祖母や母は、その子の嫁ぐ日を夢見て、心からの幸せを願い、胸を躍らせ、せつせとキリムを織ります。

女の子は5歳位になると、織り手である彼女たちのかたわらに座り、見よう見まねで糸を紡ぎ、染め方、織り方、デザインの感覚をその手にしみ込ませていったそうです。祖母や母そして娘が、精魂込めて織り上げた上等のキリムを持って嫁ぐ娘には、沢山の羊が、返礼として実家に贈られました。キリムは、家庭内で世代を超えて受け継がれます。嫁いだ娘がその家庭で伝え、キリムの文化、伝統はさらに部族へと受け継がれてゆきました。

どれもが実に個性的で、純粋で、愛情に満ち溢れています。そして、織りあげられた模様も多種多様で、ひとつひとつの模様にも意味があり、作り手の想いがこめられているのです。

### 究極のエコロジー

土から生まれ土に還すという自然のリサイクルの中で生きた彼らは、まさに究極のエコロジー生活者であり、先駆者です。世代を超えて受け継がれるキリムは、大切に扱われました。そ

れは、今も残るアンティークのキリムが証明しています。

自然に感謝し、大切に扱い、長く受け継いでゆく。これは、どんなものづくりにも基本となることではないでしょうか。

こうして生まれる美しさは、圧倒的な存在感とともに、伝えようとする気持ちや大切にしようとする想いを生み出します。それが、心が感じて動く“感動”ということなのでしょう。

古民家が再生されたゆくのも、まさにこの感動があるからです。日本にも素晴らしい文化や伝統がたくさんあり、日本の住宅もそのひとつなのです。新しい技術やデザインを追い求めるだけでなく、古く美しいデザインの背景・想いに少し耳を傾け、目を向けてみれば、その魅力はきっと理解でき、伝わるものがあるでしょう。

### インテリアとしてのキリム

現代の技術はあらゆる面で発展し、これからも進化し続けるでしょう。しかし、機械では決して生み出せないものがあります。

たとえば機械で素晴らしい色や模様、織りを再現した敷物はたくさんあります。大量生産で価格も手ごろなものになるでしょう。けれど、そうしたものに、何世代も受け継いでゆこうとする気持ちが生まれるのは稀なことのように思えます。

価値のあるものとは、そのものの背景にある歴史、伝統、文化が自然ににじみ出ているものが多いのです。今までに、そういったものに出合ったことがある人は、その魅力に魅了されるはず。何よりも強く残していこうとする人の想いが、ものを通して伝わるからではないでしょうか。そして、人から人へ語り継がれ、受け継がれてゆきます。

こうしたひとつひとつのキリムのメッセージを受け取り、彼らの代弁者ともなりギャラリーを営む、キリムズ



ジャパンの齋藤待子氏。美しく心地よいキリムを、「最後まで使い切る」ことをテーマに、ギャラリーにはキリムの小物が溢れています。大きな敷物として使っていたものでも、ほつれたり、痛んだりした部分は、切りとり、ほぐし、クッションカバーやコースター、かばん、壁を飾るアートとして、色々なものに生まれ変わります。もちろん、敷物としてのキリムもたくさん扱っています。

歴史や文化を受け入れ、たとえ民族や時代は違っても長く使い、伝えようとするのは素晴らしいことです。キリムはその存在だけでも、住まいづくりの全般にわたって多くのことを教えてくれているようです。どこかにひとつ持つだけでも、きっと心を豊かにしてくれるでしょう。





ミニナルマドリ

畳の魔力

誰があみだしたのか、畳と言うのは不思議な力を持っている。普通に考えれば、単なる床材のひとつなのだが、なぜか違うものとして感じている。それが日本人なんだと考える。

板張りにも石にも、ましてや樹脂には感じられない愛情がある。そして間取りに採用すると、同じ空間も違

う建物ようになる。

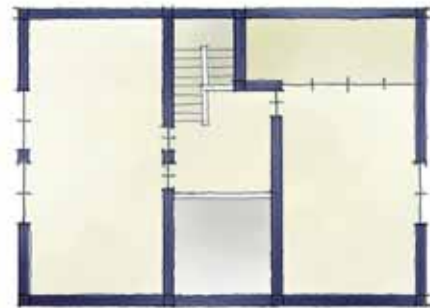
掘りごたつに座って、ごろりと横になる空間。畳の上の身近なところに手が届く。お膳を床に置いても清潔さを失わない。まさに部屋を変える魔力が畳にはある。



HABITA 住まい塾工房



1階 22坪



2階 20坪



住まいのオーダーメイド館

畳ベッド

畳職人と家具職人とデザイナーが生み出した使いやすい健康的な畳ベッド。デザインは小泉 誠。

ひのき畳は、森林浴効果でリラックスでき、調湿性にすぐれ、ダニの抑制効果などとても健康的な畳です。その他材料も健康にこだわり、すのこには桧無垢材、畳表には熊本産有機栽培無着色い草、塗装はリボス自然塗料を採用しています。

ひのきの健康効果で快適な睡眠を得ることができます。

サイズ(高さ、奥行)、機能(収納、棚)、仕上(角を丸める)、カラーがオーダーできます。

また、お部屋に合わせて畳ベッド・スノコベッド・畳コーナーのオーダー対応が可能です。変形部やコーナーの柱型などの凸部にもあわせて製作できるのがお客様に喜ばれています。



サイズ:W2180×D1010×H240(シングル)  
材種:本体/桧集成材節無し(板30mm)畳床/健康ひのき畳床  
商品価格/145,000(シングル)~  
403掲載商品No. G-0228\_016

住まい文化の葉

とりの2

建築の世界に動物の名前を探すと、昔の人の思いがわかります。鶏以外の鳥の名は、まだまだ他にもあります。

鳥のシルエットを思い浮かべて象徴になるのは、なんとと言っても嘴です。これをそのまま名前にしていく工具有ります。つるはしです。まさに鶴の嘴と書き、建築よりもむしろ土木で使われることが多く、スコップが効かない固い地面を砕いたり、岩石を掘り起こすのに使います。

縮めて「鶴」と呼ぶこともあり、木の柄の先に尖った鉄製の刃が、両側に付いているものを指します。

これが片方になると「鶯」になります。しかし一般的な鶯口とは、鶴のようにまっすぐな形状ではなく、まさに猛禽類の嘴のように鉤状に曲がった刃が、片方に付いたものです。木場などで木材を寄せるときに鉤を使って引っ掛けていたのです。こうしてできた穴を、鶯穴と呼びます。

この鶯口を持った職人も「鶯」と呼び、建て方や杭打ちなどの荒仕事をします。江戸時代には火消し人足も兼ねていて、頭は2尺(約60cm)の短い鶯口を持ち、平人足は1.5m以上の長尺を持ち区別されていました。昔の火消しはこの鶯口を使って建物を引き

倒すことで延焼を防ぎ、鎮火の手立てとしていました。元来は大工とは、作る役と壊す役との差ほどあります。

さらにこの鶯職の半人前のことを「鶯」と呼びます。なんとなくイメージが分かるような話ですが、実は「鶯」というのは、古い都市家屋の中では「鶯」がかりとした部位の名前として使われていました。屋根の棟付近に置かれていた火消し用具であり、水桶や火叩きのための箒などを指します。

転じてこれらを支える材にも同じ名がつきます。さらに、棟飾りの総称として使われる地域もあり、「鳥おどし」とか「雀おどし」と鳥にちなむ名です。空を飛ぶ鳥のこと。やはり屋根周りにつけられていることが多いようです。屋根の部位の名称である鶯尾の鶯というのも鶯を表したものです。



住 健 住 康

じゅうけんじゅうこう

カーテンで寒さ対策

風が冷たくなり、いよいよ冬が近づいてきました。暖かな日差しのある日中は、カーテンをしっかりと開けて、太陽の光で室内の温度を上げることは、一番身近な暖房方法です。夕方には早めにカーテンを閉めて、温度調整をしましょう。

しっかりと窓を閉めカーテンも閉めていても、リビングのソファ近くやベッドの枕元に窓があるとスースーと寒く感じたことはありませんか？

その原因は、部屋の外と中の温度の差です。冬場、窓の近くは外気で部屋の中の空気が冷やされ、カーテンと窓の間で空気が動きます。冷たい空気が室内で暖められた空気によって押し下げられる現象が起こります。これをコールドドラフト現象と言い、暖房効率が悪いだけでなく、健康にも悪影響を与えます。一般的には暖かい空気は上へ、冷たい空気は下へ移動して対流が生まれます。窓や扉の隙間や上部から、暖かい空気が逃げ、室内の上下の温度差を大きくしています。この場合、天井付近と床の近くでは温度差が大きくなってしまい、その差が5℃以上になると人は不快を感じるようになります。暖房が強い部屋に長時間

いると、頭がぼーっとしてきたり、顔だけほてったりするのはこのためです。

空気が冷える原因の多くは、窓からの冷気なので、カーテンは厚手にして、冷たい外気の影響をなるべく受けないようにします。

たとえば、腰から上の窓でも床までの長さのカーテンにすると、効果的です。はきだしの大きな窓の場合も、窓の大きさとはほぼ同じ大きさのカーテンではなく、余裕をもったカーテンの大きさにする方が、下から冷気が下りてくるのを防いでくれるので、より効果的です。

また、カーテンの上部も、天井から吊り下げたり、カーテンレールの上にカーテンボックスを付けるのは、窓まわりの表情が変わるだけでなく、カーテン裏での空気対流がおこりにくくなるため、冷気を防ぐのに有効です。

年中同じカーテンで過ごすのではなく、衣類や布団と同じように、カーテンも夏・冬と使い分けをしましょう。工夫次第で、健康的に、部屋が暖められる身近な布です。



菜園ライフを楽しむ、新しいダイアリー「ベジ&ハーブ手帳2011」を20名様にプレゼント!

●キッチンガーデニスト・クラブ

<http://www.jlds.co.jp/kgc/>

月間、週間ダイアリーの中に、野菜やハーブに関するタイムリーな情報が満載の、新しいスタイルの菜園手帳です。タネまき&収穫時期の年間スケジュール、全41種類の野菜&ハーブの栽培記録が書き込めるほか、旬の野菜の活用法やレ

シピなど、野菜とハーブのプロによる楽しいコンテンツがぎゅっと詰まったダイアリーです。ご希望の方は、平成22年12月末日(必着)までに、下記係までご応募ください。※当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。



20名様に当たります!



# Green Earth

地球の陸地の1/4は、森林です。森林は、空気をつくり、水をたくわえ、土をつくります。しかし、森林が、あと100年でなくなってしまうという報告があります。森林破壊です。環境問題として、これから大きな問題になってきます。

それでは、森林の重要な役割から説明しましょう。水をたくわえること、地球温暖化の原因の一つである二酸化炭素を吸収し酸素をつくること、生物の住む場所をつくること、食べ物をつくること、森林には、私たちの生活に密接している役割が多くあります。

このような森林を破壊する主な原因として次の項目があげられます。

1. 大量の木材利用による大量の木材伐採。
2. 焼畑による原生林の消失。
3. 放牧地や大規模農地確保のための開拓。
4. スキー場やレジャー施設などの開発。
5. 酸性雨による木々の荒廃。
6. 地球温暖化による砂漠化。

1970年代以降、これらの原因により、森林の面積が減っています。特に、酸性雨は、私たちの生活が作り出しているものです。この酸性雨によって、樹が枯れて、森林破壊が進んでいます。

この森林破壊を防ぐために、4R

## あと100年で、地球から森林がなくなる？

運動が推進されています。4R運動は、Refuse 拒否、Reduce 減少、Reuse 再利用、Recycle 再資源化。日常生活で、私たちひとりひとりが協力して、その小さな努力で大きくなっていくのです。「もったいない」という先人たちの教えは、これから先の私たちの生活においても、もっとも重要なことです。

今、私たちは、どんなものも便利になりすぎて、大切なことを見失いかけています。これから先、誰にでもできるリサイクル運動をもっとも、自分たちの手で、つくっていくことが大切です。資源を大切にすることは、私たちのこれからの使命です。全世界で、問題となっている地球温暖化、そして環境問題について、もっともって考えていきましょう。これからの子どもたちの時代を豊かにするために。



## HABITA あさひ

千葉県旭市、JR旭駅からのどかな田園風景を車で約7分。HABITAあさひ(株式会社ブライト)のモデル兼オフィスのHABITA岩瀬牧場を訪れた。

「お客様に、よりHABITAの良さを体感してもらうため、実際にキッチンで食事を作っていただいたり、リビングでくつろいでいただいたり、自由に活用してもらっています。訪れていただいた際は友人宅に遊びにきたようなリラックスした雰囲気を感じてもらいたい。」と金田康孝社長。

引越しの後必要な家具や

照明などもお客様に頼まれて一緒に買い物に行くことがあるという。お客様との関係を一番に考えている社長の人柄を感じる。そんな住宅好きの社長だが昔は精密機械の工場で働いていたという。

「再就職の際、昔、自分は何が楽しかったのかを良く考えました。それは厳格な父親と共に話し合い取り組んだ、家族の新しい家づくりでした。普段は無口な父親が中心となって、その時ばかりは団結して家について考える。その作業が何よりも楽しかったんです。家が完成した時の家族皆で味わった感動は今でも覚えている。父親に再就職先を住宅関係だと告げた時、めずらしく喜んでくれたんです。」

自分たち家族の味わった感動をお客様にも体験させてあげたい。そんな家づくりを目指していると社長は語ってくれた。

**長持ちする木造住宅。**  
地域で育った木をその地域で使う。

**見本**

木造なら全て長持ちするわけではない。耐久性において一番気をつけたいのが輸入材が国産材かということ。木造が長持ちする秘密に、木材が育った土地で呼吸を続けるということがあるんだ。これは、その環境に慣れた木材が最適だということなんだ。日本は湿度が多いから、乾燥した地域で育った木材を日本の住宅に使うと、耐久性に大きな影響が出てくるんだ。木材はその地域その環境と同化して初めて、腐ったり劣化しないです。

# 5th Room

## 時代の手法

時代が急激に変化しつつあります。大量生産の社会の流れを受け、質より量という考えが定着し、モノが豊かであれば、幸せと感じる時代が来ていました。やがて供給過多になり、消費者の求めるものはどのようなスタイルやデザインであるかという、消費者中心のマーケティングに変わりました。そしてこれからは企業の社会的責任や、提供するものや、それを取り巻くものが機能的、また感情的、そして精神的なものまでを求められるようになってきました。

モノ中心から、人間中心のマーケティングになり、環境にやさしく、また人が楽しく暮らせる、幸せや健康などをテーマにした考え方に変わろうとしています。

ガーデン&エクステリア業界では、家と庭と人との暮らし方の一体化がますます進んでいます。5th

ROOM(五番目の部屋)は、リビング、ダイニング、キッチン、ベッドルーム、の延長線上に五番目の部屋を作っていくという考え方です。わずかなスペースの屋外空間でも室内からの動線をうまく使い、あるときには外の空間をいかに中の空間と同一化できるかです。リビングの部屋と屋外のデッキ空間がひとつになったとき、素晴らしい「五番目の部屋」ができ、人は幸せだと感じるのだと思います。

この幸せの形をつくるのが求められるときに、わかりやすく提案できる道具ができました。これが



# Takasho

## 「ポーチガーデン®」 家と庭をつなぐ、もう一つの部屋。

詳しくはホームページへ!



折戸パネル仕様で、フルオープンにすれば開放的なガーデンルームに。



ライティングをプラスして、夜でも快適なくつろぎの空間をつくれます。



屋外で気軽に家族団らんが楽しめるもう一つのリビングとして。

